

第 27 回 朝来市公共交通会議 会議録

○ 開催日時 令和 7 年 8 月 20 日（水） 午後 2 時 30 分から午後 3 時 50 分まで

○ 開催場所 朝来市役所本庁舎 4 階 会議室

○ 出席者氏名

	出席者	欠席者
委員	天 野 修 二	井 上 学
	黒 崎 崇 裕	岸 田 直 也
	日下部 達 也	新屋敷 昭 一
	山 口 忠 司	
	田 内 淳	
	小 田 正 儀	
	山 本 正 之	
	勝 山 清	
	椿 野 純 夫	
	巻 野 めぐみ	
	木 原 健 太 (代理：中 村 洋 一)	
	阿 江 誠	
	熊 谷 樹一郎	
	藤 本 修	
	桑 田 祥 夫	
	伊 藤 宣 廣	
	西 垣 尚 子	
事務局 (都市整備部都市政策課)	部 長 小 谷 康 人	
	課 長 京 住 真 志	
	課長補佐 足 立 徹	
	上席主査 大 林 厚 之	
	主 事 居 相 幸 伸	

○ オブザーバー（欠席） 兵庫県交通政策課 副課長 小 玉 嗣 人

1 開 会

2 あいさつ

会 長： 本日は今年度2回目の会議。次第のとおり、報告事項が4件、協議事項1件。本日も皆さまから忌憚のないご意見をいただき、慎重審議いただきたい。

3 報告事項

(1) 地域公共交通施策に係る主な取組状況（前回会議以降）

事 務 局：【資料1に基づき説明】

委 員： 今回初めてのケアマネジメント支援会議への参加について、この会議は年何回ぐらい、市でどれぐらいの規模で開催されているものなのか、追加の情報があれば教えていただきたい。

事 務 局： 具体的に年に何回かということとはわからないが、複数回開催されると聞いている。今回、参加した際は、20名から30名程度のケアマネージャーが参加していた。研修や勉強会の1コマとして、デマンド型乗合交通について時間をいただき説明をした。

委 員： 利用普及を図るという観点で、効果がありそうか。

事 務 局： ケアマネージャーからも、こういう機会が欲しかったという声をいただいた。実際に普段接している高齢者の方からデマンド型乗合交通に関する質問があるということで、当日は当方からの説明後、多くの質問があった。これまで情報が届いていなかったところに、ある程度情報を伝えることができたと考えている。これがどこまで実際の利用者まで届くかは現時点ではわからないが、今後も引き続き、福祉関係者とも連携していきたい。

委 員： このように市内のケアマネージャーに対して周知するという事は、大変結構なこと。

(2) 朝来市デマンド型乗合交通（各エリア）の運行状況

事 務 局：【資料2に基づき説明】

委 員： 和田山・山東エリアで1台当たり利用人数17.6人ということは、一運行でいうとどれぐらいか。

事 務 局： 平日と土曜日で違うが、平日1日10便運行しているので、単純計算すると1便当たり、1時間あたりで約1.7人となる。

委 員： 和田山・山東エリアの予約が取りづらいと噂で聞いた。また、路線バスを乗継いで、デマンド型乗合交通を予約して、デマンド型乗合交通を降りたらまた路線バス乗って、その後、またデマンド型乗合交通に乗るというような、1日ずっと路線バスやデマンド型乗合交通を乗りっぱなしの人がいるように聞いている。他の予約を取りたい人や本当に利用したい人が利用できない状況にも成りかねないため、そういう利用者の対策も何か取ってもらった方がいいと思う。朝来市の場合、「あこか」というフリーパ

スのような乗り放題の券がある。こういった利用者が重なったら、本当に買い物や医療機関への移動で利用したい方が利用できないのではないかという思いで質問した。

委員： 今後、モニタリングしていく必要がある案件だと思う。

委員： 生野エリアは他のエリアと比較すると、生野駅から鉄道や路線バスへの乗継ぎの割合が、非常に高い。これは病院行きも結構多いので、JRやウイング神姫あるいは全但バスの路線バスへの乗換えといったところに顕著に表れていると思う。

委員： 区内で自宅の前から利用している方がいる。これまでは、バス停が遠かったが、今は自宅付近から乗れて大変喜ばしいという声を聞いているが、エリアを越えた運行を希望する声もある。

委員： 和田山地域の場合、主要な乗降場所がイオンや朝来医療センター。その近くの住民は、あまり利用はしてないが、走っている車両はよく見かける。目立つ車両なので啓発になっている。

委員： 山東地域では、主に買い物のためにミニフレッシュ山東店への利用が多い他、朝来医療センターや銀行、郵便局を利用される方が多い。山東地域では、だんだん自宅登録者も増えてきており、今後、さらに利用者が伸びていくのではなかと思っている。

委員： ある運動施設のトレーナーから聞いた話だが、これまで自転車で通っていた利用者が、年齢や体調の関係で通えなくなっていたところ、デマンド型乗合交通ができて、再び通えるようになり、喜ばれていると聞いている。

委員： 先月、地区の夏祭りイベントがあった際、そこ高齢の方と話していたら、デマンド型乗合交通の話が出た。それほど高齢の方ではないが、ある方が「車をそろそろ手放そうかなと考え、デマンド型乗合交通の自宅登録をした」と話されていた。すると、その方より高齢でまだ車に乗っている方が、「まだ若いのにそんなんせんでもええやん」というふうな会話がされていた。他の方からも、「よく走っているし、便利らしいで」とか「私も登録して、この前乗ってみた」という会話が広がっているのを見て、やはり利用して、その感想等を話すことによって、近所の方同志で声を掛け合って、自宅登録をしたり、一緒に乗ってみようということに繋がっていくと思う。私が、利用した時の運転手さんと会話の中でも、1人で利用される方が多いが、2, 3人で乗られる方もあるという話も聞いた。一度の利用で何人かが乗っていくという、この乗合の意図が段々と達成されるようになればいいかなと感じた。

委員： 混乗率はどれくらいか把握しているか。

事務局： 運行している時間中に何人乗っているかという乗合値は、2以下という状況。

委員： その乗合は、グループかどうかは確認できるのか。

事務局： 確認をとるのは難しい。先ほど説明した乗合値は、別々の予約が何件あるかのということで把握している。

- 委員： デマンド型乗合交通が、ドアトゥードアになって、非常に便利が良くなると、タクシーの需要が全く無くなってしまうことを懸念する。タクシー事業者に委託していただいているが、本業が厳しくなってしまう。
- 委員： 事業者なくして地域公共交通は維持できないということは、以前から議論があったところ。現在、交通形態が大きく変わっているが、結局のところ、やはり事業者を大事にするということは変わっていない。今後、施策を進めていく上で、各事業者を大事にしていくということは、忘れてはいけないことと考える。

(3) 朝来市デマンド型乗合交通に関するアンケートの実施

事務局：【資料3に基づき説明】

- 委員： 和田山・山東エリアも今後、生野エリアと同様に運行開始から1年3ヶ月経った際にもアンケート調査を実施するのか。また、結果の分析はこれからとのことだが、3ヶ月経過した和田山・山東エリアの結果と、1年3ヶ月経過した生野エリアの結果で、極端に違うようなことがあれば、次の会議で報告していただきたい。
- 事務局： アンケート調査については、今後、生野エリア同様に各エリア運行開始から1年3ヶ月経過後、朝来エリア、和田山・山東エリアでも都度実施する予定。その結果については、傾向や特記事項について、本公共交通会議で報告させていただく。
- 委員： 我々、交通事業者としても、地域住民や利用者の方の意見を拾っていくことは、なかなか苦手なところもある。こういった行政が主体に行うアンケート調査と連携しながら、一体的に交通の計画を立てていく必要があると感じている。また、地域の方と話をしていく中で、やはり乗っていただいている方と乗っていただいていない方との意見では、非常に差がある。やはり乗っていただいている方のご意見を一番に考えていきたい。
- 委員： 運賃が安いのか高いのかという質問があるが、それは、その人の価値観等によるもの。その結果によって運賃を変えるものではない。やはり先ほど他の委員からもあったように、路線バスやタクシーの需要を食ってしまったらダメだと思う。新たな需要の掘り起こしというのが大事。そう考えると便利さ、不便さというのは、ちょうどタクシーと路線バスの間ぐらいであるべき。あまり便利になればタクシーになってしまう。また、運賃設定についても、ちょうど間ぐらいにあるべきと考える。
- 委員： ある程度便利なものについては、対価を払って維持していくという考えが、今後、持続していく可能性という意味では必要。

(4) 市内全域での朝来市デマンド型乗合交通の本格運行開始

事務局：【資料4に基づき説明】

- 委員： 現在、白ナンバーで走っていると思うが、運転手の免許は1種か2種のどちらか。また、どれぐらいの割合なのか。先ほど少し話があったが、和

田山・山東エリアは非常に利用者数が多く、今後利用者が増えてきた場合、車両台数がネックになるのか、それとも運転手の数がネックになるのか。合わせて、利用者が増えてきた場合の対策について教えていただきたい。

事務局： 運転手の免許種別については、1種、2種のどちらもいるが、割合については、今、持ち合わせていない。今回、自家用有償を導入したメリットとして、国の指定の講習を受けることで、1種免許でも運転手となれることから、運転手不足にも対応した制度となっている。今後、利用が増えてきた場合、運転手不足の観点では、2種免許が必要な路線バス等に比べ、運転手の確保はしやすいのではないかと考えている。今時点では、まだ乗合が少ない状況であり、現状の台数での対応を考えている。

委員： いよいよ10月から市内全域で本格運行となる。このデマンド型乗合交通は非常に便利なものになっているが、本来の目的とするところをもう少し確実に皆さんに伝える必要があると感じている。タクシーではないし、従来の定時定路線のアコバスでは、乗っていただけていなかった。そういった状況の中で、同じお金をかけるのであれば、この新たな乗合交通ということで導入している。ただ、乗合ということで、他の予約があった場合は、目的地まで回って行くということもある。その辺がまだまだ理解が得られていないのも事実。公共で税金をかけて運行するには、効率ということも考える必要もある。今回、アンケート調査の回答もたくさんいただき、本日も貴重なたくさんの意見をいただいた。利用者の方、事業者の方、そして交通政策に携わる方、いろいろな意見をいただいている。デマンド型乗合交通のみならず、幹線の鉄道や路線バスの現状等、これら公共交通を利用している方、利用していない方、また、これから利用する方、それぞれの皆さんに正確に伝えることが行政の役目と理解している。

4 協議事項

(1) 路線バスの休止申請（全但バス運行分）

交通事業者：【資料5に基づき説明】

委員： よふど温泉方面は、利用者が少ない路線なのか。

交通事業者： 本日資料の14ページ下段に、6月に実施した乗降調査の結果を記載している。例えば、よふど温泉から桑原の区間の1便あたりの利用人員は1.2人であった。その他のエリアについては、竹ノ内から林垣の区間で1便あたり2.6人、白井から柳原の区間で1.0人、田中下から桑原の区間で3.4人となっている。こういった状況からデマンド型乗合交通でも十分に利用いただけたと考えている。定時定路線に縛られないデマンド型乗合交通をもっと市民の方に感じ取っていただき、利用いただければと思う。その分、我々、バス事業者は輸送力が十分に発揮できる和田山駅、イオン、朝来医療センター等の輸送に乗務員を充てていきたい。幹線バス、デマンド型乗合交通、そして、鉄道の三つを含めたネットワークをしっかりと整え、朝来市域の路線を維持、確保していきたい。

交通事業者：【資料 6 に基づき説明】

休止協議の結果を踏まえた、ダイヤ改正について説明。

5 その他

事務局： 次回の公共交通会議について、令和 8 年 2 月 12 日木曜日、午後 2 時から開催予定。正式な案内は改めて送付する。

委員： 資料 13 ページ下段、使用料の減免のところで、身障者手帳等所持者の介護として乗車する利用者の使用料を減免すると書いてあるが、例えば、乗降援助で一緒に乗る場合、今まではその 2 人目の人は通常の使用料をもらっていたのが、今度 10 月 1 日からその方の使用料が半額になるということではないか。

事務局： 変更の時期については、10 月を待たずして、既に減免制度を実施している。減免制度の内容としては、委員が言われたとおりである。

6 閉 会

副会長： 本日も皆さまには、慎重審議いただいた。今後もいろいろと出てくると思うが、皆さまの協力により、前に進めて、改善をしていきたい。本日の会議では、地域交通施策に関する取組状況やデマンド型乗合交通について、大変、有意義な意見交換ができた。今後も、皆さまのご理解、ご協力、そして更なるご支援を賜りたい。